

## ノロウイルスの流行情報

感染性胃腸炎は多種多様な原因によって発生しますが、全国約 3,000 カ所の小児科定点からの患者発生報告数が増加するのは冬季であり、その大半はノロウイルスやロタウイルス等のウイルス感染を原因とするものであると推測されています。また、患者発生のピークは例年 12 月中となることが多く、同時期の感染性胃腸炎の、特に集団発生例の原因の多くはノロウイルスによるものであると考えられています。

感染症発生動向調査によると、全国約 3,000 カ所の小児科定点からの感染性胃腸炎の 2010 年第 46 週（11/15～11/21）の定点当たり報告数は 10.64（報告数 32,084）と、前週の報告数（定点当たり報告数 7.70）よりも大きく増加し、第 42 週以降増加が続いています。ほとんどの学校や幼稚園の夏季休暇が終了した直後の第 36 週から第 46 週までの定点当たり累積報告数は 50.31（累積報告数 152,281）であり、年齢群別では 0～1 歳 25.4%、2～3 歳 22.0%、4～5 歳 17.6%、6～7 歳 10.4%の順であり、5 歳以下で全報告数の 60%前後を、7 歳以下で 70%以上を占めているのは例年と同様です。

### 今後のノロウイルスの流行予測について

感染性胃腸炎は、その報告数が 11 月に入ると急増し、12 月中（第 49～52 週）にピークを迎えるという流行をほぼほとんど、どの年で繰り返してきました。2010 年は第 39 週以降、過去 10 年間の同時期の報告数としては 2006 年に次ぐ高い値で推移しており、その高い水準を維持したまま第 45 週、第 46 週と大きな増加がみられています。この傾向は今しばらく継続し、流行は更に拡大していく可能性が高いものと予想されます。感染性胃腸炎の発生動向とノロウイルスの検出状況には今後とも注意が必要です。

国立感染症研究所 感染症情報センター

感染症発生動向調査 週報 第 46 号ダイジェスト

<http://idsc.nih.go.jp/idwr/douko/2010d/46douko.html#chumoku1>

感染性胃腸炎の年別・週別発生状況（2000～2010 年第 46 週）

<http://idsc.nih.go.jp/idwr/douko/2010d/img46/chumoku01.gif>

感染性胃腸炎の年齢群別割合（2010 年第 36～46 週）

<http://idsc.nih.go.jp/idwr/douko/2010d/img46/chumoku03.gif>